

# 総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

## 2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ⑤農林水産業分野(8/8)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
競争力と持続力を持つ交流6次化モデルの構築特区 (南アルプス市)	正	2.2	2.6  進捗度 ・遊休農地面積 -229%  ・周遊観光入込 61%  ・人口の社会増減 -285%  ・交流人口 56%  ・エネルギー自給率 179% 等	2.0  規制の特例等 ・農振法及び農地法に係る協議・許可等の効率化  財政支援等 ・油脂酵母によるバイオマスエネルギー実証事業	2.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6次化拠点施設の運営が頓挫したことが大きく足を引っ張っており、それをカバーするためにさまざまな取り組みを展開しているが、特区として統一的な戦略は構築されていないというのが率直な評価である。</li> <li>・6次産業化といった場合、何を基盤とし、そこからどのような展開を図っていくかをもう一度検討する必要があるのではないかと考えている。今回の内容については、都会からの移住者の獲得にポイントが動いてしまっているように見える。</li> <li>・6次化ネットワーク拠点施設の「南アルプス完熟農園」を中心に事業を展開する計画のものが多く、その頓挫を境に計画の進捗が著しく落ち込んでいるのがみられる。評価指標(2)遊休農地面積は大幅な増加になっている。また、評価指標(3)の周遊観光客数や評価指標(4)人口の増減もは横ばいだが計画からは著しく遅れている。「南アルプス完熟農園」開店による効果を見込んだものなのでしかたがないが、結果として地域の発展がほとんど見られていない。「南アルプス完熟農園」に変わる方法が容易に見いだせていないからであろう。仮に有効な方法を見つけたとしても、こうした巨大施設に頼らず地道に展開するには、それなりの時間が必要で、PDCAサイクルを廻して倦まずに実施していくしかない。</li> <li>・当該特区の事業計画は、株式会社南アルプスプロデュースによる6次産業化拠点に多くを期待するものだった。とはいえ、特区の評価指標として設定されている就農人口、遊休農地活用が同社の破綻に起因しているとの分析は適当ではない。これらは農業の担い手育成や定住促進、農地集約等の施策によって達成されるものであるはず。同社の破綻は深刻なダメージではあるが、それだけの問題としてしまうべきではないと考える。「地域独自の取り組み」欄が空白なのも気になる。</li> <li>・そもそも、6次化拠点施設のみに過度に依拠した過大な目標設定だったところに問題があるのではないかと。</li> <li>・6次産業化拠点については今後民設民営としていくとのことだが、そもそも特区においては自治体当局の適切な関与が必要なのではないかと。破綻の経緯説明からも、市の予算削減が破綻の一因のように読み取れる。</li> <li>・財政・税制・金融支援の活用や、地域独自の取り組みについても、活発とは評価できない。</li> <li>・数値目標(6)「エネルギー自給率」のみが、実績値が目標値を上回っている状況であるが、この点は評価したい。</li> </ul>

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。